家庭数配付

№567　9月号　令和8年9月1日

西東京市立東伏見小学校
校　長　中嶋　太

かけはし

学校ホームページ　更新中

学校HP

ご寄贈の報告

校長　中嶋　太

今日から、２学期が始まりました。子どもたちの明るく元気な声が響き渡り、学校に活気が戻りました。２学期には、周年記念行事や学習発表会の他、移動教室・社会科見学・生活科見学などの校外学習が続きます。夏から秋、秋から冬へと季節は移ろい行きます。子どもたちが皆仲良く、伸び伸びと生活していけますよう、ご家庭・地域での見守りをお願いいたします。

さて、今年度は、開校 70 周年の記念すべき年です。東伏見小学校の昔の資料を開いてみると、いろいろなことが分かります。本校初代校長の矢口崇博氏は、過去の周年記念誌で次のように述べています。「校舎だけがぽつんと建って、畑の畦が残る校庭には垣根もなく、身を寄せる一本の立木もありません。黒板と机腰掛け以外、運動具も、図書も、理科実験教具も、見事に何もありませんでした。これが東伏見小学校の出発の姿です。唯あるものは、子供達の輝いた眼、先生方のやる気、父母の奉仕、役場の方々の厚意、そして四者のチームワークだけでした。」この文章から、開校当時は、何もない荒れ地に急ごしらえで校舎が建ち、教室に机と椅子だけが並ぶ学び舎だったことが分かります。それでも、待ちに待った学校の建設に、多くの人々の歓喜と期待が込められていたことも伝わってきます。

一転して、70 年後の今は、校庭にメタセコイヤの巨木が青空に向かって伸び、「くじら山」が芝生の上を優雅に泳いでいるかのようです。真新しかった木造校舎は、鉄筋校舎に建て替えられ、今では傷みも多く、修理を重ねて大事に使う日々です。教室や体育館には空調設備が整い、子どもたち一人一人にタブレット端末が配布されています。70 年前からすれば、きっと考えられない光景でしょう。それでも、昔は 1 か月余りだった真夏日が３か月ほどに急増したり、SNS なしでは生活できない世の中に激変したりして、子どもを囲む環境も大きく様変わりしました。求められる安全対策や育てたい子ども像も、時代と共に大きく変わってきています。

そうした中で、開校 70 周年の記念を祝して、関係する方・団体の皆様よりご寄贈を頂戴いたしました。正式には 11 月２日（月）の開校 70 周年記念式典にて発表させていただきますので、今回は“予定”としてご紹介させていただきます。まず、西東京市教育委員会から、70 周年記念誌と記念品（ハンドタオル）をいただきます。ハンドタオルの図案モデルは、子どもたちから募集して制作した「くじまる」のマスコットです。また、東伏見小学校 PTA から、テント 14 張りをいただきます。５月の学校便りでお礼を申し述べましたが、今年度の運動会ですでに使用させていただきました。そして、岡田　勇様から、高性能プロジェクターとホワイトボード 80 枚、図書・本棚をいただきます。岡田　勇様は、育成会会長の他、学校運営協議会副委員長、避難所運営協議会会長として、日頃から本校の学校運営を支えてくださっています。プロジェクターは、７月１日（水）の 70 周年記念集会で、作曲家　野口義修さんの動画を視聴する際に使用しました。11 月２日（月）の 70 周年記念式典や 11 月 27 日（金）・28 日（土）の学習発表会でも使用する予定です。ホワイトボードは、縦 60cm、横 90cm の大型のものです。既存のホワイトボードと合わせて、各学級８枚常備し、日常的に授業で活用できるように考えました。ホワイトボードは、班で話し合うときに、子どもの思考過程が明らかになりやすいことや、多様な意見を集約できることによさがあります。タブレット端末とのハイブリッドでの活用を進めます。図書は、子どもから人気が高く、現在図書室にない物を 100 冊以上選定し、本棚と共に設置しました。他の図書同様、図鑑等を除いて、貸し出し可能です。ホワイトボード、書籍共に、９月から効果的に活用を図っていきます。貴重なご寄贈、誠にありがとうございました。

時は流れ、求められる物や追い続けるべき理想は変わりますが、「子どもたちの輝く瞳、教職員のやる気、保護者や地域の皆さんの心温かな想いや見守り、教育委員会をはじめとする関係団体の支援、そして四者のチームワーク」は、変わらず豊かで力強いです。引き続き、よろしくお願いいたします。

☆９月　生活目標　「係や当番の仕事をすすんでしよう」

学校には、給食当番や掃除当番、係活動や委員会活動など、みんなが気持ちよく生活するために必要な仕事が多くあります。どの仕事も集団で生活する上でとても大切な役割です。自分からすすんで取り組んだり、責任をもって担当したりすることで充実感や達成感が味わえます。その良さを味わえるよう今後も指導してまいります。

11 住み続けられるまちづくりを